

つながりの中でくらす
生まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 72

2022年4月発行

ほうぷ 昨年度のビッグニュース！

① 事業所を新築しました

2021年11月にリニューアルオープンをしました。前回1月号に1階部分のご紹介をしていますので、詳細は会報71号をご覧ください。事業所の目印になっているピンクのオーニングは、木口財団さまの助成金と皆さまからの「ひだまりテラス」応援金によって設置することができました。改めてお礼申し上げます。リニューアル記念コンサートでは、室内だけでなく、オーニングの下にも観客席を作りました。先月は、紙芝居の読み聞かせ会と駄菓子屋さんを開きました。室内に並ぶ木製のおもちゃワゴンも近隣施設の理事長様よりご寄付をいただきました。たくさんの方々のご支援により、事業を行っていることを幸せに思います。障害児者の場としてだけでなく、地域の様々な活動の拠点になればと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

② 大学の実習生の受け入れを開始しました

昨年度より、大学生の実習受け入れを始めました。今年2～3月に同志社大学1回生2名に対して、社会福祉士養成課程の一環として「ソーシャルワーク基礎実習」を行いました。事業所内での実習に加えて、地域との連携についても学んでいただき、地域の様々な機関や民生委員・主任児童委員さんにもご協力をいただきました。また、千里金蘭大学から「こども音楽療育実習」の受け入れも行いました。小さな法人ですので、大勢の受け入れは難しいですが、少人数で充実した内容で実施していきたいと考えています。

③ 感覚統合遊具を導入しました

事業所を新築し、天井に感覚統合遊具を吊るすことができましたようにしましたが、高価な遊具が購入できるのだろうかと思っていました。この度、丸紅基金さまの助成金により、感覚統合遊具などの遊具を購入することができました。本当に感謝です。コロナ禍でストレスを溜めている子どもたちにとって、大きなプレゼントとなりました。順番に並んで、嬉しそうに遊具を使って遊んでいます。(詳細は2～3ページをご覧ください)

雨の日でも思いっきり遊べる♪

ほうぶの感覚統合遊具

「感覚統合」について

人間は生まれながらにして、身の回りの環境からさまざまな感覚刺激を受けとりながら生活しています。私たちの身体には、おなじみの「五感」（触覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚）に加えて、ふだんはあまり意識することのない「前庭覚」「固有受容覚」という二つの感覚がそなわっています。

前庭覚は、地面に対する身体の傾きや、動きの速さ／遅さを認識します。固有受容覚は、全身の筋肉の緊張やゆるみ具合、関節への力の入り具合を感じるものです。これらの感覚は、身体のバランスを取って姿勢を一定に保ったり、身体を自分のイメージ通りに動かしたり、力加減を調節したりするのに欠かせません。

五感（触覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚）と前庭覚・固有受容覚、あわせて七つの感覚が、必要なときに適切に働き、脳内でうまく処理できている状態を「感覚統合」とよびます。感覚統合がうまくいかないことが、さまざまな不器用さや生活のしづらさの要因になるといわれています。感覚統合を効果的に促すために、とくに前庭覚・固有受容覚・触覚に焦点を当ててつくられたのが感覚統合遊具で、さまざまな発達支援の現場で活用されています。



フレキサースイングⅠ

宙に浮いた状態で、回転・振り子運動が楽しめます。



ポニースイング

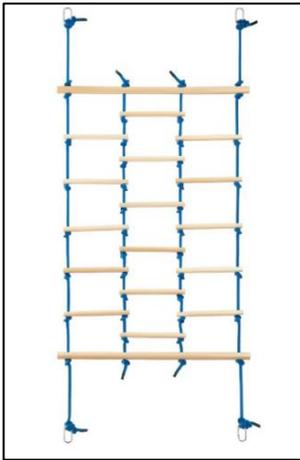
前後左右の揺れを感じられます。またいでも、抱きついて、ブランコのように乗ってもOK！





ポケットスイング

ハンモック型遊具です。揺れを楽しむだけでなく、全身をゆだね、布に包まれることで情緒の安定にも役立つそうです。



ラダーウォール

吊り下げ型の縄はしごです。バランスを取りながら全身の筋肉を使い、両手・両足の協調性を養います。

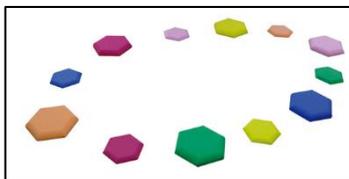
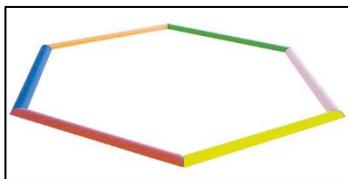


エアポリン

空気でふくらむトランポリン。思いきりジャンプ運動ができます。



上記の他にも、バランス遊びに活用できる遊具を入荷しています。



さまざまな感覚統合遊具を導入するにあたり、丸紅基金2021年度社会福祉助成金を活用することができました。

子どもたちの豊かな遊び環境づくりに大きな意義を認めてくださった丸紅基金の皆様にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



丸紅株式会社様の訪問があり、贈呈式が行われました。

放課後等デイサービス「楽童ほうふ」報告

2022年を迎えて早々に、新型コロナウイルスの「第6波」といわれる感染拡大がおとずれました。子どもたちも、マスク着用・消毒・検温などの感染対策にずいぶん慣れてきているように見えますが、言葉には出さずとも、窮屈さを感じる日々が長く続いているなかで、一人ひとりいろいろな思いを抱きつつ過ごしているように想像します。

2月・3月には、支援学校高等部2年のAさん、中学校3年生のHさんを囲んで、「ワタシ×ミライワークショップ」を開催しました。Aさんについては、高等部卒業後を見ずえて、Aさんの繊細かつ豊かな感性が大切にされ、かつ存分に発揮できる将来展望をめぐって、ご家族や関係機関の皆さんと意見を出し合いました。Hさんについては、本人から、卒業の一区切りとしてワークショップをしたいという意向が示され、Hさんのこれまでをふりかえりつつ、学校・家庭・ほうふ、それぞれの場で見せるHさんの多面的な姿を関係者一同で分かち合い、これからの高校生活も、その後の長い人生も、さまざまな可能性に開かれていることを確認するひとときとなりました。

このワークショップは、放課後等デイサービス事業を開始する以前から、法人理念「つながりの中で暮らす・望まれた人として生きる・自分らしく生きていく」を地域社会で具体的に実現していくための試みとして、独自に開発し、取り組んできた活動です。「つながりの中で暮らす」ことが、どの子にとってもあたりまえの日常として紡がれていくよう、私たち自身が日々のつながりの中で支えられ、生かされていることを忘れずにいたいと思います。



ワークショップの様子。付箋に書かれた一つひとつの意見が未来へのヒントになります。

グループワーク

2022年1月15日（土） 参加者：子ども11名

2022年2月19日（土） 参加者：子ども 9名 実習生2名

2022年3月19日（土） 参加者：子ども13名

月1回、土曜日プログラムとして開始したグループワークも、今年で3年目に入ります。子どもたちの参加意欲を引き出すための新たな試みとして、1月から、絵本の読み聞かせの時間を設定したり、高校生メンバーの考えたミニクイズを取り入れたりしながら進行しています。2月は、『こども哲学』シリーズ本（重松清監修、朝日出版社、全10巻）を参考に、「しあわせってどんなとき？」というお題を設定し、自分の考えに近い絵カードを選んで発表しました。一人ひとりの性格や興味関心、日々の暮らしぶりの一端が垣間見えるような、そして自分自身についても新たな気づきが生まれるようなテーマ設定も工夫したいと考えています。



大学生ボランティアによる音楽会

2022年1月22日(土) 参加者：子ども 5名 ボランティア4名

2022年2月12日(土) 参加者：子ども 6名 ボランティア3名

2022年3月12日(土) 参加者：子ども11名 ボランティア3名 実習生2名

オミクロン株の感染拡大の只中ではありましたが、武庫川女子大学音楽学部の学生ボランティア主催による音楽会は3か月連続で開催できました。3月には、同志社大学の実習生が企画した宝探しゲームも併せて実施しました。

毎回、子どもたちがどうすれば楽しんでくれるかとさまざまな趣向をこらしてプログラムを練ってくれています。大学生の皆さんも、子どもたちと直に関わり合いながら日々の学びの成果を実践できる機会があることを大変喜んでくれています。



春の七草&凧揚げ

2022年1月8日(土) 参加者：子ども13名

食育及び季節行事の一環として、七草がゆを作って食べました。調理前に七草の絵を見ながら、七草の実物と名前を確認していきました。付け合わせのおかずには、お肉を使わないヘルシーメニューとして、厚揚げと根菜の味噌煮を作りました。こちらはお替わり希望が出るほど好評でした。お腹を満たしたあとは、手作りのビニール凧を持って、淀川河川敷まで足を運びました。



角を作ってオニに変身!

2022年1月29日(土) 参加者：子ども12名

1月の創作活動は、節分を先取りして、牛乳パック、毛糸、色紙、リボン、輪ゴムという身近な素材で、オニの角を作りました。毛糸の束と色紙は、さまざまな色・柄を用意しておき、子どもたちが好みの組み合わせを自分で選ぶようにしました。ここで子どもの個性が作品に現れます。できあがった角をつけて、オニに変身!



のり巻き体験&オニ退治ゲーム

2022年2月5日(土) 参加者：子ども12名 ボランティア4名

昼食は恵方巻にちなんで、のり巻き体験をしました。自分で巻いたのり巻きでお腹を満たしたあとは、玉入れ方式のオニ退治ゲームをしました。オニの顔とパンツをデザインするグループに分かれて作業をし、できあがった顔とパンツを紙袋と段ボール板に張り付ける

と、3匹のオニが出現！ 赤オニ・黄オニ・青オニのかごに、制限時間内にどれだけ新聞紙玉を放り込めるか、チーム対抗で競いました。最終的にはすべての新聞紙玉をかごに入れることができ、オニ退治を完了しました。



防災訓練&地域清掃

2022年2月26日(土) 参加者：子ども7名 実習生2名

「火事が起きたらどうする？」をテーマに、防災訓練を実施しました。火事の基礎知識についての紙芝居クイズを行ってから、窓からテラスに避難する訓練をしました。クイズで確認した「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」を守り、口元を手で押さえて腰を低くして避難することができました。避難訓練で外に出たあとは、近所の公園のゴミ拾いに行きました。公園で遊んでいた地元小学校の子どもたちが「わたしもやる！」と次々に合流し、一緒にゴミを拾いました。ゴミを拾ってから、手伝ってくれた地元の子たちもごちゃ混ぜになって、自分たちでキレイにした公園で遊びました。



「ほうぶ商店」オープン！

2022年3月6日(日) 参加者：子ども4名 ボランティア4名

ひだまりテラスを活用して、屋外で小規模かつ短時間のしごと体験&交流イベントができないかと考え、紙芝居と駄菓子屋さんをセットにした「ほうぶ商店」を企画・開催しました。近所の公園や商店街でチラシ配りをし、看板も大急ぎで手作りし、午後3時に「ほうぶ商店」オープン！ チラシをもらったという地元小学生が親御さんと一緒に来てくれました。また、ほうぶメンバーのご家族も遊びに来てくれました。10円均一の駄菓子コーナーの他、ほうぶメンバーの絵画作品をグッズ化したポストカードやシール、ほうぶメンバーのゆるいメッセージが書かれた「ハッピーおみくじ」の販売コーナーも設けました。駄菓子はもちろん、グッズやおみくじも大好評の売れ行きでした。

今回の成果と課題をふまえて、これから定期的に「ほうぶ商店」を開催していきます。



進級&卒業おめでとうパーティー

2022年3月25日(土) 参加者：子ども14名 ボランティア1名

今年度は、小学校・中学校を卒業するメンバーに加え、どの子も一つ学年に上がることも含めてお祝いしようと、「進級&卒業おめでとうパーティー」を開催しました。第1部「発表の部」では、中学校卒業のメンバー2名と一緒に朗読劇の発表をしました。その他にも、アニメ編集動画のオープニング上映、弾き語りパフォーマンス、ひとり漫才、ダンスなど、バラエティに富んだステージ発表がありました。第2部「ビンゴ大会」では、年度末のお宝大放出で、ビンゴが成立すると3つ景品がもらえるということで一同大興奮。はじめにビンゴが成立したのは、中学校を卒業するメンバーでした。それぞれの門出に彩りを添える、ささやかな思い出になればと思います。



● 地域活動報告 ●

- 1月11日(火) ブックスタート開催 (5組の親子さんの参加がありました)
*今年度は奇数月の第二火曜日に開催予定です
- 1月19日(水) 旭区地域自立支援協議会本会定例会に参加
- 2月 7日(月) 神戸松陰女子学院大学教育学科の授業を行いました
- 2月14日(月) 旭区地域自立支援協議会こども部会に参加
- 2月16日(水) 清水地域活動協議会の清水フェスティバル会議に参加
- 2月17日(木) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会
- 2月26日(土) 楽童ほうぶで地域清掃 (清水南公園と清水中公園) を実施
- 3月 4日(金) あさひの輪(旭区子育て支援団体の集まり) 定例会
- 3月 6日(日) 清水フェスティバルの予定でしたがコロナの影響で中止になったため
ひだまりテラスにて、読み聞かせ会&駄菓子屋を開催
- 3月16日(水) 旭区地域自立支援協議会本会定例会に参加

楽童ほうぶでは、昨年度から小学生が増えて、毎日にぎやかです。地域の小中学生が多いこともあり、春休みには友達がやってきて、一緒におやつを食べたり、勉強したりしていることもありました。卒業生もやってきます。放課後等デイサービスの制度の上では良くないかもしれませんが、いろいろな子どもがごちゃ混ぜにいることは大切なことだと考えます。ほうぶが地域の居場所になっていけばうれしいです。みなさまも、どうぞお立ち寄りください。

